

人どうしが助け合う「共助」が大きな力となります。ですから、もし、災害が発生したら、まずは落ち着いて自分の身を守ることを優先してください。あなたがケガをしたり、命を落としてしまったら、周りの人を助けることはできません。「自助」あつての「共助」です。

さらに、自分の家を守るためには、住んでいる地域を守らなければなりません。近所で火の手が上れば、自分の家も危険。火事は、生命、財産、思い出、すべてを奪っていきます。これらの被害を最小限に食い止めるためには、やはり日ごろからの近所とのつながりや協力体制が不可欠です。

発生する地震を防ぐことは出来ませんが、しかし、地震の起きる前の今なら、できることがあります。家が壊れず、家具が倒れなければ、家の中は安全です。特に寝室は徹底的に対策を、「被害に遭った」と想定する前に「被害を出さない」ようにすることが肝要です。

災害が起きてからでは間に合いませんし、普段できていないことを災害時に行うことはできません。ぜひ、自分と家族、自分と地域との関係を見つめ直してみてください。平時から「自分でできること」「家族でできること」「近所と力を合わせてできること」について考え、いつ起こるか分からない災害に備えておくことが大切。消防や行政から「守られる」という制度的な面と「自分たちで守る」という主体的な危機管理が重なったときこそ、真に、災害に強い地域となるのですから。

家族で防災会議を

災害時に家族全員が一緒だとはいりません。あらかじめ家庭での役割分担や決まりごとを家族で話し合っておきましょう。▶非常持出品などの備えの役割を決める。▶災害発生時の役割を決める。▶子どもやお年寄りがいる場合は誰が援護するか決める。▶家屋の危険箇所を確認し修理や補強を話し合う。▶避難場所を確認し複数の避難ルートを確認する。▶家族が離ればなれになった場合の連絡方法を確認する。



守りたいものは何ですか。
どうすれば守れますか。
だれが守りますか。

防災 おわり

意識

考えたい。

その時の頼みの綱とは

「自助」「共助」「公助」

普段は当たり前前の機能でも停止してしまうのが大災害です。自分そして家族、近隣、地域へと「守り」の範囲を広げていくしかありません。災害の瞬間、自分の身を守る最大の味方は自分自身です。

守られる十守る

橋は落ち、停電で信号機は機能せず、道路は寸断。大地震が発生すると、同時多発的に火災が発生し、消防も救急もすべての現場に対応することができません。緊急車両はほとんどの現場への到達が困難になり、断水で消火栓が使えない状況も想定できます。そんなとき、頼みの綱は、近所の助け合いによる救助や初期消火。実際に阪神・淡路大震災では、倒れた建物から救出された人の約6割が「近所の人」によって救出されました。

災害時に、行政による「公助」はいうまでもありませんが、自分の身は自分で守るという「自助」、地域や身近にいる

地域で自主防災組織を

自主防災組織は「自分たちの地域は自分たちで守る」という理念から地域で自発的につくられる組織です。全国的に大規模地震の発生率が高い地域で組織され、実際に機能しています。災害時は、高齢者や乳幼児、障害者が特に被害を受けやすく、周囲の手助けが欠かせません。組織で家族構成などを把握していれば、救助も効率的に行うことができます。

● 平常時の活動例 ▶防災訓練の実施 ▶各世帯構成の把握 ▶応急救護講習の受講 ▶防災知識の習得や広報など

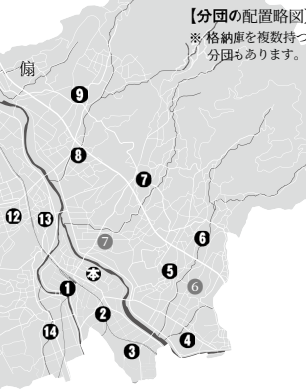
● 災害時の活動例 ▶情報収集や伝達 ▶火災の初期消火 ▶救出や救護 ▶避難の誘導 ▶2次災害防止の巡視など

地域を守る福智町消防団

消防団は専門職員を要する消防署とは違い、地域住民の有志で構成される組織です。災害発生時には昼夜を問わず現場に急行し、地域の生命と財産を守るべく訓練と実践を重ねています。福智町消防団は365人の団員で構成され、15の分団が町内全域に配置されています。

団長	中村 博樹
副団長	藤本 利彦
副団長	武末 義輝
副団長	丸山 米太郎

本部分団	分団長 石井 康文	団員 39人
第1分団	分団長 高橋 卓己	団員 38人
第2分団	分団長 栗野 実次	団員 19人
第3分団	分団長 植高 信春	団員 19人
第4分団	分団長 池永 明	団員 24人
第5分団	分団長 谷口 隆晴	団員 22人
第6分団	分団長 勝木美智也	団員 25人
第7分団	分団長 稲富 廣隆	団員 25人



第8分団	分団長 坂元九州男	団員 20人
第9分団	分団長 太田 博視	団員 22人
第10分団	分団長 世良 喜彦	団員 16人
第11分団	分団長 日高 伸久	団員 21人
第12分団	分団長 澤田 誠次	団員 17人
第13分団	分団長 伊丹 利行	団員 16人
第14分団	分団長 森 五十男	団員 38人
4月1日現在(団長・副団長含む) 計 365人		

INTERVIEW



福智町災害対策本部長
浦田 弘二 町長

災害時に不可欠な全町連携

住民のみなさんには家庭、近所、地域へと防災の結びつきを深めていただき、私ども行政は、消防団、消防署、自衛隊、県、関係省庁との連携を強化し、それぞれが無駄なく機能する危機管理体制を構築しなければなりません。公助を担う行政として、有事の組織づくりと対策、研鑽と訓練を重ね、万全を期して参ります。